

コンソシアムハブとしての Meel を目指して

2018.12.25

コンソシアム構想は、岐阜大学の炭素繊維リサイクルセンター（現在 Gu コンポジット研究センター）に在籍時に提案した内容を継承するものです。

多くの方々にコンソシアム立ち上げのご支援いただきましたが、組織変更などもあり、在任中には設立には至りませんでした。大きな課題は運営母体と事務局設置でした。今回は Meel を運営母体として、事務局は会費制により賄う方向で検討しています。

炭素繊維リサイクルセンター(CFRC)にコンソシアム案の概要を示しますので、引き続き関心のある方は Meel ホームページ「お問い合わせ」フォームにてご意見などをいただければ幸いです。

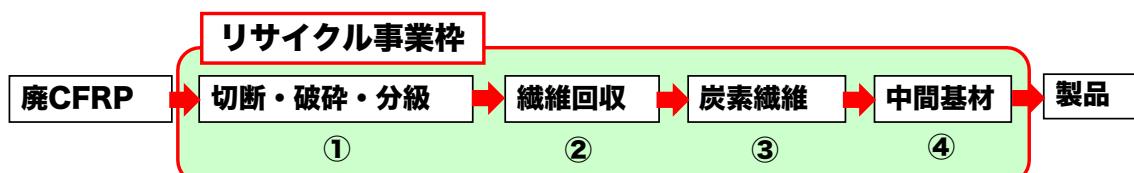
設置目的

旧炭素繊維リサイクルセンターは、リサイクル炭素繊維の総合研究拠点として、回収技術、中間基材、健康影響の共同開発および品質評価手法の標準規格化を産官学共同で推進し、地域産業活性化および炭素繊維リサイクル事業の国際競争力を高めることを目的として設置したものであり、Meel がその理念を継承することとする。

現状で使用できるのは航空機用の CFRP 肢が主であり、上下流を併せたリサイクル市場はまだ道半ばにある。航空機業界の炭素繊維機材から自動車業界へのシフトあるいはフローが始まる 2020 年以降には、炭素繊維メーカやユーザの製作時の端材屑や廃材屑のリサイクルから廃機、廃車による本格的な炭素繊維廃材が排出されることが予想される。それまでにはリサイクル炭素繊維の規格化・標準化を確立し、新たに参入する回収・処理業者が対応しやすい体制を整える必要がある。そのために、学内の専門家集団および国内外メーカやユーザが参画する産官学コンソシアムを形成し、リサイクル炭素繊維の利用拡大の受け皿を目指す。

課題解決

- ・入口となる「廃CFRP」の供給量（収集／運搬）
- ・出口となる「製品」の需要量（市場拡大）
- ・リサイクル事業者の
 - ①作業環境確保
 - ②低コスト回収技術
 - ③品質保証のための規格・標準化
 - ④用途開発促進のための多品種中間基材提案



役割

Meel の業務

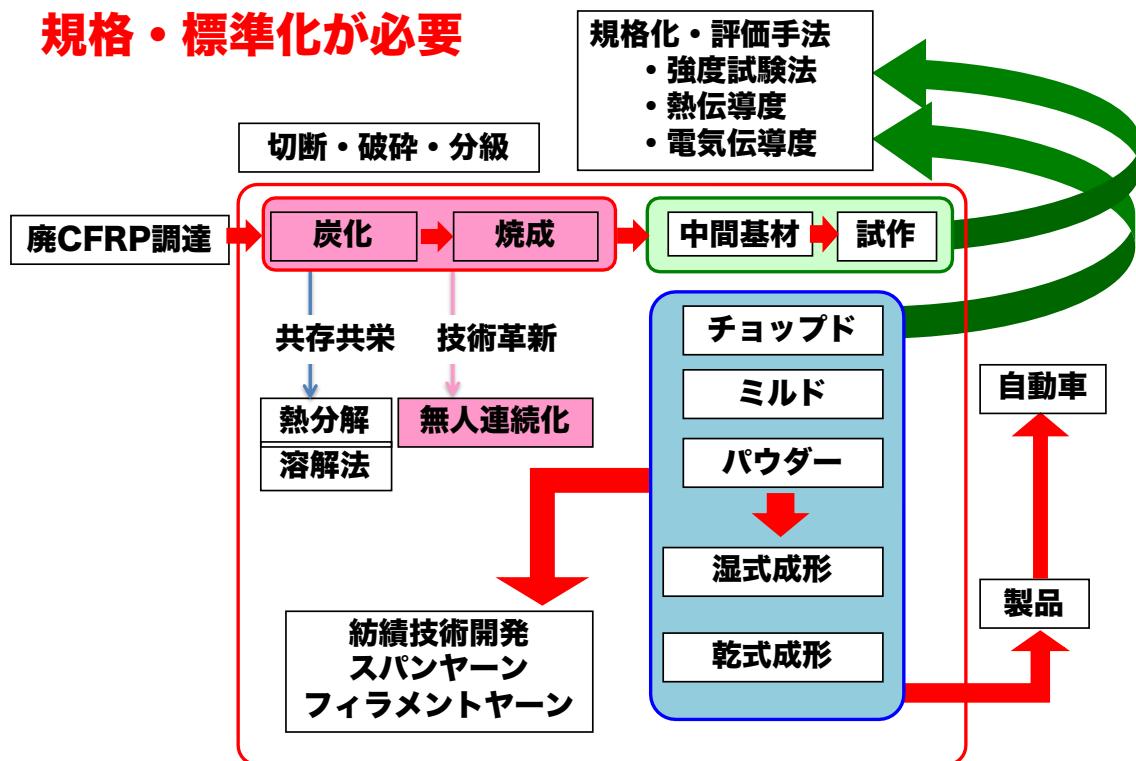
- ・入口と出口の交通整理（相談窓口）
- ・バージン炭素繊維との差別化と共存（相談窓口）
- ・処理から中間基材までの試作（技術提案）
- ・品質評価のための規格・標準化（分析請負）

Meel の役割

- ・中部地区からのリサイクル普及の発信
- ・排出業界からエンドユーザ間の橋渡し
- ・国内外の関係業界からなるコンソーシアムの中核
- ・世界トップの再生産システムの提案

〈ご参考〉

規格・標準化が必要



産学連携・地域連携 (CFRCコンソシアム)

